

MEIBI NEWS

005

2016.09

名備運輸
創立45周年記念
特大号!!

南三陸の皆さん
ありがとうございました!



ボランティアツアー1組目(6/25~6/26)
リプランスタッフも一緒に行きました!



ボランティアツアー2組目(7/2~7/3)

名備運輸創立45周年記念事業
南三陸復興ボランティア活動へ
1泊2日 行ってきました!!

本年度、名備運輸は創立45周年を迎えました。これもひとえに皆様に温かいご支援とご協力があったからこそと深く感謝しております。

弊社は「ひとにやさしい物流を」を企業理念に掲げ、ドライバーの安全運転の徹底、また、地域の清掃活動など、スタッフ全員での様々な社会貢献への取り組みをして参りました。

その中で、この45周年という節目の年が、スタッフ一人ひとりが名備運輸をより愛し、物流に携われることに誇りを持ち、その思いを直接社会に還元しながら自ら確認できる機会になることを、社長として切望しておりました。

東北沖地震発生直後より、支援物資の仕分け・輸送、また、被災地での4回にわたる炊き出しなど、社を挙げて東北の地を応援してきたということもあり、東日本大震災から5年経った今年、再度現地を訪れ、「今だからできる支援を」という気持で南三陸ボランティアツアーを敢行いたしました。

発案から、実に1年半、という準備期間を経ての実現です。

この体験は、スタッフそれぞれの心にいろんな思いを強く湧き起こしたようです。

今回のニュースレターで、その一部をご紹介させていただきます。どうぞと思えます。



代表取締役
丸川 靖彦

名備運輸創立45周年記念事業 南三陸復興ボランティアツアーへ 行ってきました!!



南三陸とは?
2011年3月11日東日本大震災発生の際、宮城県南三陸町には高さ15.5メートルの大津波が市街地へと押し寄せた。死者・行方不明者は計832人。町の62%（市街地で75%）もの家屋が損壊。同町にある防災庁舎は、震災発生の際、命を賭けて避難を呼びかけた職員がいた場所として知られる。多くの町民が財産、家族、思い出を失ったなかで町の再建が行われている。5年経った今でも「本当の復興はこれから」という言葉も聞かれる。

あれから5年たった「今」は?
言葉を失うことがありながらも、逆に元気ももらった2日間でした。

2011年東日本大震災発生当時、少しでも力になればとの想いから、名備運輸では炊き出しのボランティア、支援物資の輸送を行いました。その他にも、地元漁師の方へ船を寄贈、植樹に行きました。震災当時は、たびたび関わることもありましたが、やはり時間の経過とともに、疎遠になってしまうのが正直な所でした。あれから5年経った「今」を、自分たちの目で見て行こう。そして、現地の人達の正直な想いをこの耳で聞きたい。今回は名備運輸とリブランのスタッフが一緒に、いざ南三陸へ向かいました!



5年前の震災当時、名備スタッフは陸前高田で炊き出しを行いました。

いざ!南三陸へ!!



いつもは陸を走るドライバーたちが、空路で移動するちょっと珍しい光景。南三陸が近づくにつれ、段々と言葉数が少なくなりました。

柳津虚空蔵寺で講話を聞きました

復興支援活動をされている杉田さんから、被災された方の生の声を聞きました。

柳津虚空蔵寺は、奈良時代から続く由緒あるお寺の一つ。このお寺の副住職の奥さん杉田 史さんとは、支援活動をきっかけに親交があり、今回のボランティアツアーにも協力してくれました。震災当時、自身も被災されながらも復興支援活動を始めたことを聞き、名備運輸でも支援物資輸送のサポートを行いました。杉田さんの支援は、現地で本当に足りない物・必要とされている物を聞き集めるため、地域の人の支えとなりました。支援活動をする中で、TVや新聞では決して報じられない現実を目にされたそうです。忘れてはならない「あの日」。当時の映像や被災された方の生の声が、スタッフの心に響いていました。講話の後は、懇親会を楽しみました。

南三陸での出会い② 【寺庭 杉田 史さん】

今回のボランティアツアーでは、講話をはじめ南三陸見学のツアーガイドをしてくださいました! 杉田さんの当時の話は、何度聞いても心に響きます。



震災当時の様子を、プロジェクターを使いながら話してもらいました。改めてみると、本当に圧倒されてしまいます。

南三陸見学

①大川小学校慰問

大津波にのみ込まれ、児童74人、教職員10人が行方不明となった石巻市大川小学校。2016年3月には、被災校舎を震災遺構として、建物全体が震災当時のまま保存されています。7月2日に訪れた時、この学校でお子さんを亡くされた佐藤さんのガイドで、校舎の中まで入る事ができました。ほとんどのドライバーが「この場所が一番印象に残っている」と口を揃えて言っています。涙をこらえながらお焼香をさせていただきました。

②南三陸さんさん商店街



ここは、2012年2月に南三陸町の志津川地区にオープンした仮設商店街。復興を担う地元の実業家32店が軒を連ねています。「ここで買い物をするのが役に立つんだ!」って思うと、いつも以上に買い物をしてしまった」と話すスタッフも。

③5月に植樹した黒松を見に行きました!



今年5月に、南三陸復興国立公園に植樹を行いました。津波の塩害と松食い虫の影響でたくさんの大きな松が枯れてしまいましたが、植樹が必要なのです。植樹した黒松は元気に育っていて、我が子を見ているようで嬉しかったです!この松達が、何十年後にこの景観を守っていてほしいです。

世界遺産「中尊寺」を見ました!
本当は予定にはなかったのですが、中尊寺に立ち寄り「さっさと行ってみよう!」と行ってみたら、清々として気持ちいい!と語るのは丸川。



ボランティア活動

松原さんご夫婦を訪問して、漁業作業を手伝いました。震災から5年経った今も、人出を必要としていることが沢山あります。今回は、ホタテ耳吊り作業・仮設住宅の撤去・土木作業を行いました。

1.ホタテ耳吊り作業

ホタテ耳吊り作業とは?
ホタテ貝に小さな穴を開け、一個ずつ針金に吊るします。これを沖合の養殖施設に設置。海中で牡蠣が抱卵すると、ホタテの貝に卵が付き、そこで牡蠣が成長すると収穫できるようになります。耳吊りは大変手間のかかる作業で、震災前は仕入れてまかなえていたのですが、現在は資金面や人手の課題があり、松原さんご夫婦が通常の仕事の合間に行っています。

今回のボランティア活動を快く受け入れて下さったのは、地元で漁業をされている松原さんご夫婦。震災当時、津波が実際に押し寄せて、山の上に逃げていらしたそうです。津波の被害で、会社・自宅も流され、現在も仮設に住みながら漁業をされています。震災から5年経ったとはいえ、人出や資金が足りず「これから」なのだそうです。それでも前を向く明るい松原さんの様子に、「自分の方が元気をもらった」と話すスタッフもいました。

南三陸での出会い① 【松原さんご夫婦】



当時の様子を教えてくださいました。あの日の海を間近で見ていた松原さんのお話は、スタッフの心に届いていました。ありがとうございました!

2.仮設住宅の撤去作業



この日はウニの解禁日! 採れたてのウニをいただきました!

普段はウニが嫌いなんですけど、このウニは本当に美味しい!!

普通の賃貸住宅と同じように、仮設住宅から退去する時も、自分たちで付けた「庇(ひさし)」など取り外して出ないといけないそうです。実はこの作業、ももとの予定にはなかったのですが、たまたま新居へ引っ越しをされる方に出会い、手伝いをしました。日頃、展示会の設営をしているメンバーが大活躍! 現地の方もビックリしてました。

3.土地の整備

松原さんの作業場近くの敷地や仮設住宅は、まだ整備が行き届いていないため、雨が降ると地面がぐちゃぐちゃになってしまうのです。この作業もじつは予定にはなかったのですが、「こんなに人がいるなら手伝ってほしい」と、みんなで水はけ用の砂利をひいたり、穴を掘ってパイプを通したりしました。本当に必要とされる手伝いは、こういう小さいことの積み重ねかもしれないね。女性陣もシャベルをつかんで、積極的に作業してくれました。

スタッフの感想

被災地はまるで爆弾が落ちたような様子で、言葉が出なかった。普段の自分は、甘えてるなど思ったし、行かないと分からないことって山程あるんだと思いました。(玉置)

大川小学校に行った時、本当に痛々しくて悲しかった。地元で会った人は、決して明るくはなかった。あそこで飲んだ酒は、地元の人の思いが込められているようで、本当に美味しかった。(永井)

被災された方達は、力強く生きていました。話を聞いて、私自身も周りの人に支えられて、生かされてるんだなって..逆に励まされた気がします。(リブラン 酒井)

地元の方の本音が聞けて良かったです。戻ってから、南三陸の天気予報や地震情報は意識するようになりました。あの土地で会った方の顔を思い出します。行って良かったです。(リブラン 福富)

自分がやれることはわずかなけど、本当に思いました。現地の人に会って、自分の方が励まされたし元気づけられました。これから、自分がやれることはやっていきたいです。(濱田)

大川小学校の姿は、本当に生々しくて悲しかったです。被災されて仕事ができない状況を見て、仕事ができることがありがたいんだったと思いました。(細川)

当たり前のこと、当たり前じゃないって痛感しました。南三陸では、悔しいやら悲しいやらで、じつはよく眠れなかったんです。自分もがんばらなれなりました。(後藤)

震災当時、俺は18才。のうとうと生きて「クソだな、俺」って正直思いました。自分にもっと人を助けられる力があつたらって思わずにいられなかったです。今回行って本当良かったです。(小荒井)

まとめ

今回のボランティアツアーは、構想から1年以上経て実現しました。地元の方の話を聞いて、自分たちが出来ることをお手伝いする。喜んでいただけた姿に、それぞれのスタッフが感じるものがあつたはず。それは東北など特別な場所に行ったから出来ることではなく、自分たちが一歩踏み出せば、普段から人の役に立てる環境にいるのだと思います。今回のような体験をスタッフ達と出来る会社になってきたということは、私にとっても嬉しい限りです。他の企業のみなさんも、ぜひこういう体験をしていただけたらと思います。名備運輸では、これからも東北の支援を続けていきます。みんな、ありがとう!

「うちの会社でもこのツアーをやりたい!」などお気軽にご相談ください。私たちに出来る復興支援だと思っています。名備運輸 TEL:0568-72-3552

2 取り組み

フォークリフトの操作技術を競う 「リフトコンテスト」に参加しました!

フォークリフトとは?

物流を支える物くらのひとつ。荷物を持つための脚(フォーク)を備え、倉庫や工場など様々な物流の現場で荷物の運搬を行う。周囲への安全対策はもちろん、効率よく操作する高い技術が運転者に求められる。



お客様のリンナイ株式会社主催の「リフトコンテスト」に、名備運輸の代表として小荒井と濱田が参加しました。「物流」と聞くと、大きなトラックでの運送をイメージされがちですが、荷物の積み込み・積み下ろしなどにフォークリフトは必要不可欠。作業する場所や扱う荷物の重さによって操作に調整が必要で、なおかつ短時間で効率的に動かせるかも求められる「奥深い」ものなので

す。コンテストでは、基本操作や安全確認などが審査されました。惜しくも優勝は逃しましたが、「あがり症だけど、前回出た時と比べて良かった。またやるなら優勝狙いたいです!」(小荒井)や、「コンテストと実際の現場は違うけど、とてもやりがいがありました。良い経験です。」(濱田)といった感想が聞かれました。いつか名備運輸の中でも、こんな事ができるといいですね。



名備代表、濱田・小荒井コンビ!

3 取り組み

名備運輸のトラックが大活躍! 小学校で交通安全運転教室を行いました。



みんなで名備運輸のトラックに乗ってもらいました!



瀬戸市の小学校で、交通安全教室を行いました。当日は地元の白バイ隊員も来てくださり、交通ルールを守ることの大切さ、死角の危険性などについて学んでもらいました。実際にトラックの座席に乗って死角を体験してもらったり、人形を使った巻き込み事故の危険性を見てもらいました。(余談ですが、実演をした古賀班長の運転技術の正確さに、白バイ隊員が驚かされていました。)安全については、話や映像よりも、実際に目で見て体験してもらうことが大切です。今後も子どもたちの笑顔を守るために、こういった交流を続けていきたいです。子ども達がトラックに興味を持ってくれたらうれしいですね。

死角体験



4 スタッフ紹介

「体が続く限りやりたい!」 親子二代で名備運輸の ドライバーです!

名備運輸には、親子で働くスタッフがいます。父・安雄さんは今から13年前に、名備運輸の正面にある求人看板を見て入社。「正直、決して楽なばかりではないけど、年齢関係なく関わりあえる雰囲気が好きです」と働くことができた」と語る。現在67才だが、「体が続く限り、みんなと働きたい」と力強く答えてくれた。そんな父の姿を見て、息子・利彦さんは4年前に入社。今では仕事終わりに、喫煙所で他のスタッフと1時間近く過ごすこともあるそう。親子同じ職場で働きにくさはないかと聞くと、「全くない。むしろ、親父がいるから名備にいる。一番近くで様子を見てあげられるし、何かあっても助けてくれる人達がここにはいるから」と話してくれた。少ない言葉数の中に、お互いの健康や安全を想い合う気持ちを垣間見ることが出来る。名備運輸の名物親子です。



Vol.5
後藤 安雄
yasuo goto



Vol.6
後藤 利彦
toshiko goto

名備運輸の関連会社です

人気ブランドの小物、洋服のオンラインリサイクルショップ



大事なお洋服 買取ります!

宅配送料 手数料 無料
専門スタッフが1点ずつ丁寧に査定も致します。
買取対象 LADY'S/KIDS/MEN'S / ハイブランド(バッグなど) / 食品・コスメなど

取扱いブランド一部 ※取扱いブランドにつきましては、ホームページをご参照ください。
JOURNAL STANDARD(ジャーナルスタンダード) TOKYORIVLAND(トキヨリランド) MARGARET HOWELL(マーガレット・ホウエル) UNITED ARROWS(ユナイテッドアローズ) Shiley Temple(シレイ・テンプル) denimART(デニムアート) ARMANI JUNIOR(アルマーニジュニア) RAUHA(ラウハ) LOUISVUITTON(ルイヴィトン) HERMES(エルメス)

■買取のお申込方法
まずは、メールかお電話でご連絡ください。宅配キット(着払い)と買取申込書を送ります。
買取専用メールアドレス
kaitori@brand-lisblanc.com (24時間受付)
フリーダイヤル
0800-200-2826 (営業時間:平日10時~15時)



名備運輸株式会社
愛知県小牧市大字入鹿出新田字大島312-1
TEL:0568-72-3552
FAX:0568-73-1154
http://www.meibi-t.co.jp